

## 理事長報告



2021年度を振り返って

一般社団法人石巻青年会議所

2021年度 第57代理事長 沼倉勝哉

<スローガン>

不易流行

～自分を、未来を、アップデート～

<はじめに>

まずは、2021年度の一般社団法人石巻青年会議所の活動に対し、ご理解と多大なるご協力を賜りました関係諸団体並びに圏域住民の皆様にご感謝申し上げます。また、本年は東日本大震災から10年という節目の年でもありました。この10年間、温かいご支援、応援をいただいた日本中にとどまらない、世界中の方々にも感謝申し上げます。今年は「不易流行～自分を、未来を、アップデート～」というスローガンの下に5委員会を設置し、事業を構築して活動をしてまいりました。

新型コロナウイルスは今年も猛威を振るい、1月から一部の都府県で緊急事態宣言が発令され、京都会議も史上初の実地開催を行わない形となるなど、スタート時点から新型コロナウイルスの影響は大きいものでした。しかしながら、コロナ禍の中で我々はどうのように活動して運動発信を行っていくのか、昨年からの経験の蓄積もあり、1月総会からスムーズに活動をスタートさせることができました。対内の事業では現地とWEBのハイブリッドで効果的に使い分け、対外事業ではWEBでの配信を強化し、JCI石巻としての歩みを止めることなく運動を発信していくことで、われわれ会員だけではなくコロナ禍の中で様々な機会を奪われている圏域住民にも、地域の魅力や歴史を再認識いただき、これからの未来について考えていただけたと確信しております。2021年度を振り返り、基本方針に沿った形でこの一年間を報告させていただきます。

<積極的な会員の拡大>

近年、全国的に会員の在籍年数の低下と会員数の減少が問題視されている中で、JCI石巻は毎年多くの卒業生を送り出しており、会員の拡大は喫緊の課題となっております。今年度も入会候補者へお渡しする会員拡大パンフレットを今年度の情報へとアップデートし積

極的にPRを行いました。また、昨年からの引継ぎも身を結び、新型コロナウイルスによる行動制限や社会の混乱が続く中でも8名の志高い新入会員を迎えることができました。このバトンをしっかり次年度へお渡しできるよう、今年度も最終最後までJCI石巻の魅力を発信し、拡大を続けていただきました。

また、今年度は理事会で新入会員候補のリストを共有するだけでなく、会員拡大計画書・報告書も添付することで、毎月何名の候補者の元へ訪問し、入会に結びついたのかを可視化し、会員間での共有を図りました。今後も継続的な会員拡大を計画、実行していく意識が会員全体に芽生え、JCI石巻という組織をさらに持続可能なものにしていくものと確信しております。

#### <活気溢れる祭り事業の創造>

昨年多くの祭りやイベントが中止となり、今年は新型コロナへどう対策を行いどのような規模でどうすれば開催をできるのかを念頭に各種祭り事業を構築してまいりました。サン・ファン祭りは、3月からの宮城県の緊急事態宣言下で開催の見通しが立てられず、今年もやむを得ず10月への延期を決定いたしました。8月に再び緊急事態宣言が発令され、例年通りのようなステージを断念し、特別企画と銘打ってWEB上での動画公開と現地での事前申し込みによるワークショップを行うという形での開催をさせていただきました。

15年前に復元船に張られた後に倉庫で眠っていた帆を広げた動画も撮影し、今後への提案も投げかけさせていただきました。

川開き祭りは残念ながら陸上行事が中止となりましたが、その決定を受けてすぐにコロナ禍でも対策を行い実施できる代替事業の模索をし、7月31日から8月2日まで、道の駅上品の郷にて川開きの歴史を発信する「石巻川開き祭りパネル展」を行い、多くの圏域住民に観覧いただき、過去を懐かしんでいただきながら歴史や意義を学んでいただき、来年こそは川開き祭りに参加したいという強い希望を持っていただくことができました。

北上川フェアなど、残念ながら中止となった事業もありましたが、来年こそは多くの住民とともに祭り事業を楽しめる日が来ることを切に願っております。

#### <故郷の魅力を創出する事業の推進>

今年まちづくり広報委員会が主体となり、川開き祭りにて例年というブース事業を行い、地域の魅力を発信する予定でしたが、川開き祭りの陸上行事が中止となったことで、川開き祭りというプラットフォームに依らない形での事業を急遽構築いただき、「ちびっ子ユーチューバーが行く！謎解きたから探しツアー」と題し、小学生とともに鑄銭場跡、縄張神社、大島神社を訪れ、歴史と魅力を紹介する動画を撮影し、JCI石巻のYouTubeチャンネルで公開する事業を行いました。近年、子供のなりたい職業ランキングで上位にランクインするユーチューバーを体験できる事業であり、多数の参加応募をいただく大盛況な事業となりました。楽しく石巻の歴史に触れていただき非常に勉強になったという声や、初

めて知ることも多く、コロナ禍での夏休みに非常に楽しい経験だったという意見もいただきました。今事業でできた動画を視聴した全ての皆さんが、石巻をより深く知り、さらに好きになり、これからも石巻の歴史と魅力を発信し、明るい未来の石巻を実現する原動力になってくれると確信しております。

#### <会員の資質向上に繋がる例会・セミナーの開催>

コロナ禍によりさまざまな制約があり、大きな事業や大人数が集まるのが難しい状況だからこそ、今年は個を磨くチャンスだとの思いで、今年は1月・5月・8月・12月例会を総務委員会、2月・10月例会を祭り委員会、3月・6月例会を会員開発委員会、4月例会をまちづくり広報委員会、7月・9月・11月例会を青少年委員会に担当いただき、新入会員セミナーに関しては4月に祭り委員会、10月にまちづくり広報委員会にそれぞれ担当いただきました。

2月例会は震災の爪痕が色濃く残る2012年度に祭り実行特別委員会の委員長を務められた高橋政則先輩をお招きし、なぜ川開き祭りが受け継がれ、祭りを通してこの地域になにを伝えるのかを当時のエピソードも交えながらお話いただきました。

3月例会では「会員拡大目標達成に向けて」と銘打ち、会員一人ひとりが今後を見据えた上で会員拡大の重要性を理解する例会を開催し、JC経験の長短に関わらず会員が意見を交わし、共感者を増やす方法や魅力の伝え方と会員拡大について考える場となりました。

5月例会はJCI石巻の活動圏域である東松島市にて宮城オルレ奥松島コースを時間、班を分けて体験しました。奥松島の原風景を肌で感じ、歴史や魅力を学び、発信できる人材へと成長するとともに、コロナ禍では難しかった会員同士の親睦も深まりました。

7月例会では世界中で様々な人間が恩恵を受ける情報化社会において、青少年を取り巻くインターネット環境について身近で実際に起こった事例を踏まえ学ぶことで、インターネットリテラシーについて学びました。

10月例会はファクトフルネスという話題になった書籍より、物事を考えるときに思い込みによって認識にミスを起こしやすい10の本能について学び、データに基づいた正しい認識によって世間を正しく見る習慣を身に着ける事の重要性について理解を深めました。

11月例会では石巻青年会議所創立30周年を迎える1994年に特別事業委員会の委員長として第1回サン・ファン祭りの開催の中心となり尽力された大河原惇先輩を講師にお招きし、第1回サン・ファン祭りまでの経緯や様々な思い、そしてJCI石巻の歴史にも触れてお話いただきました。昨年から途切れてしまった本来のサン・ファン祭りへ会員の理解が深まり、来年以降のサン・ファン祭りへ期待感が高まる例会でした。

新入会員セミナーでは4月には柳橋哲也先輩を講師としてお招きし、JC運動と地域のつながりをテーマとして豊富なご経験を通してご講演いただき、10月には佐藤大介先輩をお招きし、地域のリーダーとしての運動発信をテーマとして、様々な役職を通して経験されたお話を、熱量を持ってお伝えいただきました。2つのセミナーを通し、今年度入会した

メンバーがますます意欲的に J C I 石巻の事業に参加していただき、この地域を牽引するリーダーとして成長、活躍されることを願っております。

#### <青少年の未来を広げる事業の推進>

昨年から続くコロナ禍により、我々大人だけではなく子供たちもまた、多くの制限を強いられて生活を送っています。今年度は9月公開講演会として「もっと地元が好きになる！ことばの授業」と題し、講師として石巻出身で「本間ちゃん」として県民に親しまれているタレントの本間秋彦様と、石巻弁の研究者としても高名な渡波の法音寺住職である谷川正明様をお招きし、地域の文化である方言へ触れていただき理解を深める例会を行いました。直前まで緊急事態宣言も出され、当日もまん延防止等重点措置が発令されている中での開催となり、状況と対策を鑑み、急遽ではありますが会場での観覧は中止し、WEBのみでの配信とさせていただきますが、多くの方々にご視聴いただき、石巻弁の成り立ちや活用を楽しく学んでいただくことができました。

石巻市と実行委員会を立ち上げ開催してきた政策コンテストは開催方法を昨年から模索してまいりましたが、残念ながら今年も中止となりました。来年こそは、今の時代に即した新たな政策コンテストの形を作り上げ、開催まで至ることを切に願っております。

#### <これからの地域を考える公開討論会の開催>

今年は4月に石巻市、東松島市で市長選挙が行われました。自分たちが住まう地域の未来への方向性についてより多くの市民が考え、政治に関心を持っていただき、しっかりとした根拠の下で政治選択を行える機会を創出するために、まちづくり広報委員会により公開討論会を開催いたしました。3月からの宮城県の緊急事態宣言、そして4月から発令されたまん延防止等重点措置の真ただ中で行われた石巻市市政公開討論会では、会場での観覧は中止し、YouTubeでのライブ配信並びに後日の動画配信を行いました。WEBを活用しての配信だと年齢層によっては視聴しづらい等のご意見もいただき改善すべき点もありましたが、非常に多くの方々にご視聴いただき、市長選挙において大変有意義な事業であったと実感しております。

また、10月には第49回衆議院議員総選挙もございましたが、直前で急遽自民党総裁選が行われるなど日程が定まらない中、立候補予定者の方々には事務所へ何度も足を運ばせていただき日程調整を行いましたが、残念ながら開催には至りませんでした。次回は様々な状況を想定しWEB等の様々な媒体を駆使し、ぜひとも開催していただきたいと思っております。

#### <効果的な広報活動と発信・情報公開>

今年も対外への広報として広報誌を2冊発行し、WEBを活用してHPとSNSによる情報発信を行い、対内としては情報紙を毎月発行致しました。SNSは媒体によってターゲットとなる年齢層に幅がありますので、今年はInstagramアカウントを新設し、事

業の参加推進方法としてWEB広告を取り入れるなど、より幅広い年齢層への訴求と、ターゲットを絞った効果的な年齢層への広報に力を入れてまいりました。新型コロナウイルスへの対応が必要な来年以降も有効な手段であると考えておりますので、さらなるWEB活用を推進し、さらに有効利用していければと思います。

#### <会員相互の情報共有と親睦交流>

昨年から続く新型コロナウイルスの影響下においてもJCI石巻が組織としてしっかりと歩を進めてこられたのは、先輩諸兄が今までもその時代に起こった社会問題を的確に見抜き、運動を発信し、課題を解決してこられた歴史と経験という土台があったからだと認識しております。また、会員一人ひとりの努力だけに留まらず、ご家族や会社の方々の方々の支えによって我々が活動してこられたことは疑う余地もありません。そこで、今年度も会員開発委員会が中心となり、6月に会員親睦会、11月にクリスマス会を設えていただきました。昨年は実地で集まることが叶わない中でWEBを活用して開催した会員親睦会ですが、今年は会場での参加とWEBによる参加の二通りが選択できるハイブリッド形式で開催し、しっかりと対策を行いながら新入会員も含め、大いに懇親を深めることができました。クリスマス会では昨年のドライブスルー形式だったクリスマス会をさらに発展させ、会場をグラウンドホテルさんとし、子供も大人も楽しめるゲームを体験できるセクションや、今年の活動を報告し感謝を伝える動画をご視聴いただくコーナーを作り、飲食は希望者に事前に注文を聞き、オードブルやケーキを提供する形での開催させていただきました。久しぶりのJCIらしい事業に参加できて楽しかったという子供の声も聞け、ご家族にも参加した会員にも笑顔が見える大変充実した会となりました。

#### <結びに>

今年を振り返ると、やはり新型コロナウイルスとの闘いだっただけの気がしております。しかしながら、決断を迷いそうなき、悩んだとき、いつも会員の皆様が私の想像以上の対策や設えを提案してくれたお陰でこの1年間を歩むことができました。また、多くの支えがあり、LOMの中で最も多くの学びと成長の機会をいただくことができたと感じております。コロナ禍だからなにもしないのではなく、コロナ禍だからなにを対策し、どうすればできるのかを会員一同で考え続けた1年だからこそ、我々が主催する事業は中止にすることなくやり切れたと感じております。昨年の経験が今年の自分を、そして今年度の経験が来年以降の自分を、そしてこれからの未来もアップデートさせていき、その積み重ねによって自分たちが住み暮らす地域も明るい未来へ向けアップデートし続けていくと確信しております。いつも明るく応援して下さった先輩諸兄、ともに悩み行動した現役会員の皆様1年間本当にありがとうございました。これからも自分を、未来を、アップデートして参りましょう。